

富山県人

平成25年
3月号



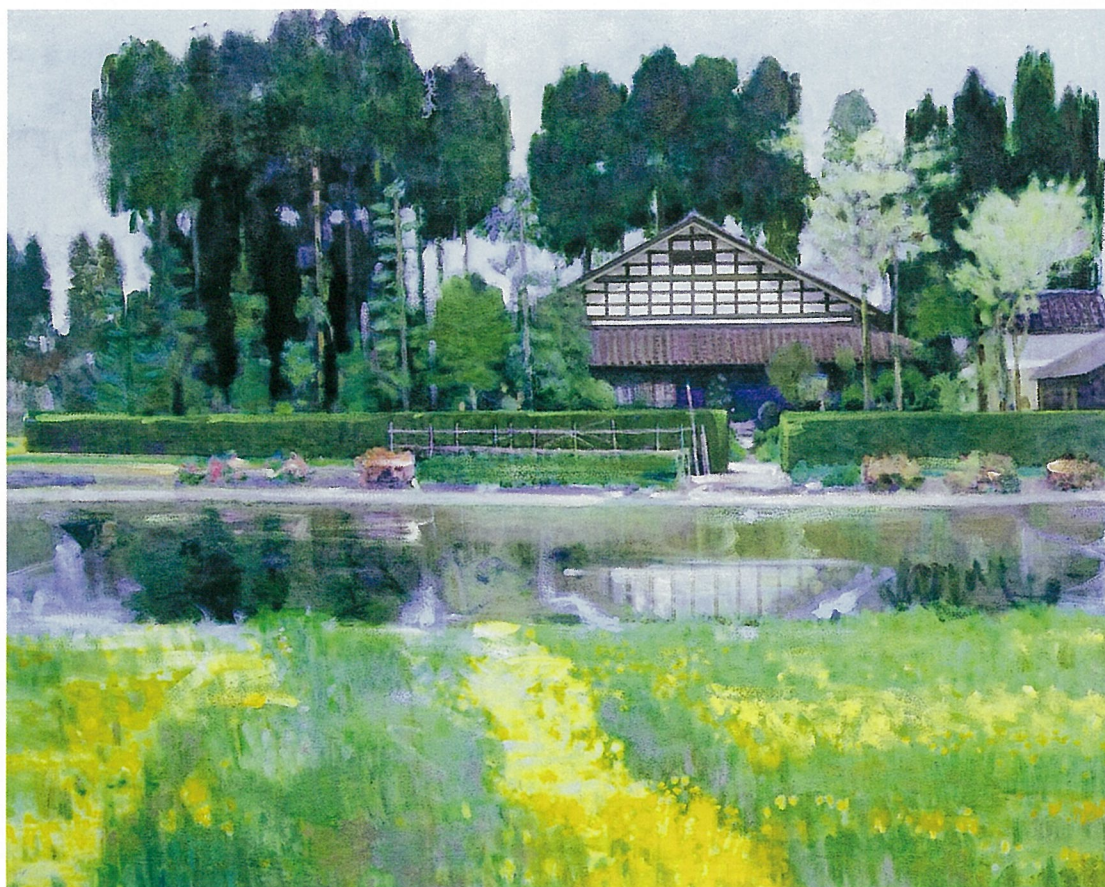
「雨晴海岸」

風光明媚な雨晴海岸から臨む立山連峰は、富山を代表する観光スポットである。

また、屋敷林(カイニョ)で囲まれたアズマダチの家が点在する砺波平野は、人々の生活の営みが美しい景観をつくっている。これから草花が芽吹き、春耕の季節を迎える。

氷見 長徳

「散居村」



郷友随想

ふるさとの思い出、
日常生活の中で、
感じたことなど…

アベノミクスに思う

市森 友明

昨年暮れの政権交代劇は、株価上昇と、待たれていた為替の円安傾向を生み出し、仕事納めの富山・桜木町はバブル期を彷彿させるタクシー2時間待ちが出現したとか。業界の賀詞交換会での皆さんの挨拶も明るい内容が中心で、昨年とは異なり活気を感じる年明けでした。

もちろんこれは、安倍政権が打ち出した金融緩和と積極財政の政策によるもので、いわゆる「アベノミクス」とマスコミを賑わせています。

さて、この政策の骨子ともなっている「国土強靱化」の発端は、内閣参与に就任された藤井聡京大教授が提唱した「列島強靱化論」にあります。

実は、藤井教授と私は大学の土木工学科で同期であり、2009年の弊社30周年記念式典にお招きし、ご講演頂きました。それ以来、富山をはじめ北陸で、専門の交通工学や

公共事業、そして「列島強靱化」などについて講演を頂いてきました。

この藤井先生が「列島強靱化論」を書くに至るまで、折に触れ聞いてきた私としては、今回の政権交代は大変感慨深いものがあります。衆院選で自民党が掲げた金融緩和と積極財政の政策は、まさに藤井先生が党に提言していた内容であり、また、自民党総裁選において安倍総裁が誕生しなければ、今回の政策は無かった（石破さん、石原さんは積極財政派ではありません）ことを考えると、藤井先生の言論活動、そしてそれを受け入れた自民党と安倍先生、自民党内での安倍総裁の誕生、そして政権交代へと流れたことに、運命を感じずにはいられない気持ちになるのです。神様がいるとしたら、本当に日本に最後のチャンスを与えてくれたのではないかと。

ここで私が知りえる範囲で政権交代までの流れを総括させて頂きます。あくまで私感及び私の回りでの出来事を中心していますが、ポイントは次のようになると思います。

・2009年の民主党政権誕生以来、藤井先生は大学教授の枠を越えて公共事業擁護の言論活動を本格化させた。（↓政権交代の日、ご本人は釣りをしていたとか…、これで日本も終わりだと思いい、奮い立ったそうです。）そこで翌年6月、『正々堂々と「公共事業の雇用創出効果」を論ぜよ』を出版。



合わせに氏と藤井先生（右）の視察「セントラム」を訪問する市森市長（左）と記者（中）

・私塾で藤井先生と経産省の言論人かつ経済に明るい中野剛志さんが出会った。（↓

これは大きなポイント。藤井先生はあくまで土木、公共投資、交通、心理学のご専門。国家経済の理論もかなりのレベルで理解されていました。中野さんの経済学、特に国際経済学の知識が合わさったことはかなりの影響が大きかったと思います。）

・藤井先生の公共事業必要論と、中野さんの財政政策論が合わさり、強固な経済対策論が出来上がった。（↓デフレ脱却と公共投資の必要性がパッケージになり、かつ国債発行の

手法やその影響を論理的に解説できるようにになった。）

・藤井先生は多数の公共事業関係の本を出版し、なかでも『公共事業が日本を救う』は週刊ベストセラーになるなど、かなりの影響力を発揮した。（↓これはかなりのインパクトでした。またこの題材で全国で講演活動を実施されました。）

・2011年3月に東日本大震災が発生し、直後に国会の予算委員会では藤井先生が日本復興5カ年計画を提唱。そして5月に『列島強靱化論』を出版し、ここで初めて強靱化というフレーズがキーワードとして出てきます。（↓これも大きなターニングポイントです。東日本大震災があったら政権交代もなかったかもしれません。）

・京都の西田参議院議員が自民党へのパイプ役となり、藤井先生を自民党本部の勉強会や国会の公述人として登用し、自民党内での支持を得ていった。（↓前代未聞の公述でした。動画を見た人は、一様に驚かれます。参議院東日本大震災復興特別委員会、11年6月16日、同国民生活経済社会保障に関する調査会、12年2月22日、同予算委員会公聴会、12年3月22日）
・2011年10月、自民党内で二階先生を会長とする国土強靱化総合調

査会が設立され、藤井先生の強硬化理論が党内にさらに浸透することとなる。(↓第1回目の調査会で藤井先生が講演し、この調査会がアベノミクスへとつながっていきます。)

・公明党でも勉強会を通じて浸透し、後に選挙公約となる防災減災ニューディール政策につながる。

・2012年2月『救国のレジリエンス「列島強化」でGDP900兆円の日本が生まれる』を出版。(↓公共事業が日本を救うの内容に、デフレ時の経済理論が合わさった内容となっており、今回の自由民主党の政策のほぼ基本になるものである。)

・2012年6月、公共調達のあり方を問う『コンプライアンスが日本を潰す』を出版。(↓過度な価格競争はデフレを悪化させるといった内容。行き過ぎた構造改革や規制緩和に警鐘を鳴らした。)

以上のような活動に加え、産経新聞の正論をはじめとした言論活動、インターネットテレビの出演、講演会などを通じて、広く世の中に積極財政による経済対策が浸透していくようになりました。

当然のことながら、自民党の西田先生を通じて、その考えは元々積極財政派の麻生さん、そしてそれほど積極財政派でなかった安倍さんにも

影響を与え、衆院選の政権公約に発展し、政権交代後のアベノミクスへとつながっていくわけであります。

衆院選投票日3日後の12月19日、藤井先生は自民党本部に招かれ、安倍総裁(当時)から内閣官房参与への就任要請を受けます。その時、藤井先生の経済論を大いに参考にしたとの言を賜ったとのこと。

ここまでの様々な方の努力、そしてその努力が重なっていった偶然を考えると、アベノミクスが成功す

旧林を思う



岡田 晃

旅ゆく鳥はかつて飛びまわっていた林を恋い、池の魚は昔の泳いでいた淵を懐かしむ。

これは陶潜の『帰園田居』の詩の一節である。このように過ぎ去った昔のことがしきりに思い出しなくなる老生になった。

本年の10月には、旧制富山高等学校創立90周年記念祭が行われる。校舎は已^{すで}になく、跡地は馬場公園になっているが、記念祭は毎年同窓会によって開催されている。関東にも同窓会支部があったが、88回を機に

することを日本人として心から願ってやみません。

ちなみに弊社の愛称は「NIX(ニックス)」。学友の今後ますますの奮闘活躍を期待しながら、アベノミクスならぬアベノニックスの働きで、成長する国づくりに貢献して参りたいと考えています。

(株)新日本コンサルタント代表取締役社長、〒930-0142富山市吉作910-1新日本コンサルタント、小矢部市埴生出身)

解散している。すでに最後の修了、卒業生も80歳を超え、恐らくこの記念祭が最後になるであろう。かつては私の同級生の今は亡き西能正一郎君が事務局長であったが、私の1年先輩である横田病院理事長横田力先生のご尽力によって今日まで持ちこたえてきたのである。

私は官立(国立のこと)富山高等学校尋常科の最後の生徒であった。戦前の教育制度は、小学校6年、中学校5年(4年で高等学校等の上級学校の受験が可)、高等学校または専門学校3年、大学3年(医学部、医科大学は4年)のコースで成り立っていた。当時の高等学校は一高など全国に30数校しかなく、高等学校を卒業すれば旧帝国大学、官立単

科大学に優先的に進学することができ、受験勉強らしきことをしなくても入学できるような仕組みになっていたので高等学校への入学は難関であった。入学すれば人生を語り、スポーツに熱中し、寮歌を吟じて感謝の日々を過ごし、まさしく青春を謳歌するようであった。当時は、少数しかなかったが、中学5年を4年で修了し、しかも高等学校へは無試験で入学できる、いわば中学校4年と高等学校3年を一貫して教育する7年制高等学校もあった。旧制富山高等学校はそんな7年制高等学校であり、小学校から60〜80名の尋常科生(旧制中学に相当)が入学し、多数の生徒は高等科(旧制高等学校)に旧制中学から難しい試験を突破して入学してきた。したがって7年制高等学校の中学に相当する尋常科の入学は難しかったようで、私の時は東京、京都、北海道など全国各地から応募していたようだ。戦前のその頃は、小学校から中学校、工業学校、商業学校などの上級学校へ進学する人は3〜4割程度の状況で、7年制高等学校へ希望することは旧帝大卒業までのコースを選ぶことになり、今から考えるとある程度の資産の裏付けも前提になりそうである。そして言いにくいことではあるが、各小